

# KSKP THRESHOLD

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.4

~すれっしょんど~ (出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュヨルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



## 回復の秋 希望は目の前に

みなさまいかがお過ごしでしょうか？ 今回で4回目のニュースレターとなりました。時の経つのは早いもので、神戸ダルクヴィレッジにとって2回目のお正月を目の前にしています。夏から仲間も急に増えて、毎日10名~15名で、食事も肩が触れ合いながらと、ドタバタとしています。急に増えた当初は、いろいろな問題でてんでこ舞いでしたが、秋を迎え、仲間同士で支え合い、それぞれの個性を活かしたプログラムに、仲間同士が助け合いながら、本来のダルクのスタイルによろしくなってきました。入寮第一号の仲間と2人で布団を横に並べて何日も過ごした日々が、本当に懐かしいです。

入寮した仲間が未だ誰一人としてドロップアウトせず、新しい仲間をウェルカムしながら助け合う姿に、自分が繋がった10年前を思い出させてもらっています。今、共に過ごす仲間たち全員が、「本当に薬物が止まりはじめてよかった」と思える日が来るように、私達も全力で取り組むことが、神戸ダルクヴィレッジのミッションです。自分達の持っているものを提供すること、そして、私達が真剣になれば、その先は閉ざされてしまうということを胸に、今日一日歩いています。皆様のご支援あって今日も希望を持っていることに心より感謝致します。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索



## 開設1周年おめでとう

日本ダルク 代表 近藤恒夫

神戸ダルクヴィレッジの誕生ありがとうございます。

全国ダルク 61 番目の産声が聴こえてきました。

心からお祝い申し上げます。

寝起きを共にし、間違いに寄り添って歩む道のりがダルクの流れです。梅田さんにとっては新しい体験ですが、先行くダルクの方々と共に歩いて学んで下さい。

心からの感謝と敬意を申し上げます。

日本ダルク代表 近藤恒夫

近藤恒夫 プロフィール  
ダルク創設者。  
元刑事被告人で薬物依存者本人

1985 東京西日暮里にダルクを設立。  
1995 第9回東京弁護士会人権賞受賞  
2000 第35回吉川英治文化賞受賞  
2009 JICA 草の根支援型プロジェクトマネージャー  
2009 法務省矯正研修所東京支所(講師)  
2011 龍谷大学矯正・保護総合センター(嘱託研究員)  
2013 第4回作田明記念財団最優秀賞受賞  
著書「薬物依存を越えて」海拓舎  
「拘置所のタンポポ」双葉社  
「日本の(薬物)依存」生活文化出版  
「本当のドラッグ」講談社



アディクションフォーラムひょうご」開催決定!

兵庫県民センターさんの助成事業として、兵庫県内初の第一回アディクションフォーラムを開催することが決まりました。

現在、有志が集まった実行委員会のメンバーによって準備が進められています。間もなくチラシが完成しますので、皆さん是非ご参加ください。

兵庫県内の当事者グループが、つながりあうために、今後毎年開催できるように取り組みにしていきたいと思っております。

日時 2018年2月10日(土曜日)

10:30～16:30

場所 神戸市総合福祉センター4階

テーマ「一人じゃないよ! 仲間がいるよ!」

参加無料 各自助グループメンバーの経験談

特別講師「藍里病院 副院長 吉田精次先生」



神戸ダルクヴィレッジ設立1周年おめでとうございます。梅田さんと知り合って7年くらいになります。梅田さんにはアパリのフィリピン・プロジェクトで大変お世話になりました。

アパリのフィリピン・プロジェクトは、フィリピンの貧困層地域の薬物依存症者の回復支援のために、ダルクがこれまで行ってきた毎日の、ルーティーンな当事者活動の積み重ねの成果を活用して、コミュニティベースの回復システム作りを目指すものでした。JICAの草の根技術協力事業として2009年から3年間、現地で活動した後、さらに大規模な支援を行うべく、現地でダルクを建設して職員を常駐させることを計画し、すでにフィリピンで活動していた梅田さんに白羽の矢を立てて協力をお願いしたのでした。その時点でフィリピンにNAはあったのですが、それはもっぱら富裕層にしか浸透していませんでした。貧富の差の激しいフィリピン社会では、高い壁と銃を持った門番に守られた富裕コミュニティ内で、富裕のもたらすつながりや精神の貧困ゆえに薬物使用に走る依存症者たちと、ひもじさを紛らわすためにラグビーと呼ばれるセメントのボンド剤を口にする少年たちとの間には、はかりしれないほどの分断が横たわっています。ゴミ拾いに明け暮れる貧困の中で、栄養も教育も得られない若年層たちはまた、貧困と薬物禍の連鎖の中で終わりなき毎日を過ごしているのです。

梅田さんは当初、アパリとはかかわりのない別ルートで、フィリピンやタイで薬物依存症の研究と、依存症者の回復支援を積み重ねていらっしゃいました。高い知性に裏打ちされた、身体ひとつでアジアのどこにでも飛んでいってしまう行動力。弱い者、貧しい者に寄りそおうとする共感能力の高い優しい心。大きな目を見開いて、丸ぼちやな身体で大汗をかいて走り回り、周りの協力を引き出さずにはいられない、得もいわれぬチャーム。梅田さんの魅力を一言で語り尽くせる言葉を私には見つけられません。

私たちアパリが、梅田さんの知性と行動力、やさしさとチャームをフィリピン・プロジェクトで最大限に活用させていただけたことは、アパリにとっても、日本国の国際貢献という視点からしても、本当に幸せなことだったと思っています。

フィリピンで梅田さんは自ら貧困層の中に乗り込んで貧困地域に居を構え、現地の自助グループメンバーたちと深い心のつながりを築き上げました。その一方で、大統領の諮問機関である保険省や危険薬物委員会(DDB)の高官といったフィリピンの薬物対策の中核にいる政府高官たちとも密接な個人的関係を築き上げ、腹を割って話し合い、フィリピンの未来を真剣に語り合ったのです。

今年の3月、私たちはDARSを通じてタイのナンバーワン大学、マヒドン大学のプラパブン・チャウロエン先生と国際研究会を共催させていただく機会がありました。プラパブン先生が梅田さんのことを「私の同僚」として語られ、梅田さんの紹介ということで色々と便宜を図ってくださったのは、私たちにとってはとてもありがたいことでした。

梅田さんには国際舞台でも、もっと活躍していただきたいのですが、今は神戸でダルクの責任者をされています。ますますのご活躍を心よりお祈りしています。

## 開設1周年 おめでとう

NPO 法人 アジア太平洋地域  
アディクション研究所  
事務局長 尾田真言



尾田真言プロフィール

1961年東京生まれ 56才。

中央大学大学院法学研究科博士後期課程を経て、平成12年からNPO法人アパリ事務局長。逮捕段階からの薬物事犯者のサポートを行い、保釈中や受刑後のダルクや病院への入院等のコーディネートを行なっている。

非常勤職として、国士舘大学法学部講師、龍谷大学矯正・保護総合センター嘱託研究員として、アメリカのドラッグ・コート制度など、薬物事犯者の更生にかかわる制度の研究をしている。



## 親孝行 タケ

僕は神戸ダルクに入所させてもらっているアディクトのタケです。刑務所も3回目で、よくわからず両親に手を引かれて入所しました。

3回目の刑務所出たのが今年の2月20日で、その足でダルクに来ました。初めは時間が経つのが遅く感じられていたのですが、クリーンが進むにつれて一日経つのがあつという間に感じられている今があります。

回復して、自立している姿を親に見せてやりたいです。正直、全く自信はありません。自立なんてできるのかなと思っています。ただ、今はダルクにすることが、自分にできる唯一の親孝行だと思えるようになりました。それは、薬を使っていない一日を過ごしているからです。何もできていないと自信を失っていましたが、仲間に「薬を使わないで生きていることが一番喜んでもらえる」と教わってからは、それを一生懸命やっています。僕は、大好きなお父さん、お母さんの願いでダルクに来ました。今は、少しだけ自分の思いでダルクにいます。社会復帰したら、もう薬には手を出さないように神に誓いたいと思っています。正直、お嫁さんも欲しいし、子供も欲しいですし、親に自分の子供を見せてあげたいと思っています。どちらにせよ、お父さんお母さんには長生きしてもらいたいというのが僕の願いです。というのも、僕が社会でもう一度やり直している姿を見せたいからです。もう少し自分には時間がかかると思うからです。

仲間の皆さんこれからも宜しくお願いします。今日一日頑張っていきたいです。

## NA 大阪コンベンションに参加して Joe

今回、大阪で NA のコンベンション(全国大会)があると知り、まず最初に思ったことは、どんな人たちが来るんだろう?という不安、全国から仲間が来るということで精神的な不安も大きく、また僕は今、腰の骨折の後遺症もきつく、体の心配もありました。

だけど、行ってみると数多くの仲間と色々な形で会うことができ、言葉で言い表せないくらい最高によかったです。特に、前から知っていた仲間が色々な仲間を紹介してくれて、こんな僕にも仲良く接してくれたので、すごい宝物を見つけたような気持ちになって興奮して嬉しく思いました。その時に知り合った女の子や音楽仲間が今はとても大切に思えます。

NA 大阪コンベンションに行かなかったら、僕はもっと孤独な日々を送っていたことでしょう。まさにテーマの「NEVER ALONE(決してひとりじゃない)」を経験できました。見えない力に圧倒され、ハイヤーパワーというものを、とても強く感じることができました。友人のご両親とも会ってお話することができてとても嬉しかったです。

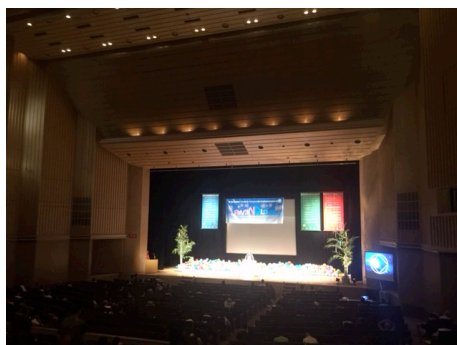
今後も時間や体調が合えば、また来年もコンベンションに行きたいと思っています。来年は名古屋で開催するようです。

今回のコンベンションでいろんな話が聞けて、僕は前向きになれるようになりました。そしてその日の夜、仲間とホテルで過ごして、より深い絆を感じることもできました。それは思い出に残る、とても楽しい時間でした。ぜひ、皆さんもコンベンションに参加してみてください。



武庫川溪谷ハイキング

NA コンベンション



家族でコンベンションに参加



## 神戸ダルクにて

## スタッフ 中村恵大

神戸ダルクの中村と申します。今年の4月から神戸ダルクで働いております。私が神戸ダルクに来た時には2名だったダルクの利用者も、あれよあれよという間に増えてきて、今では入所利用の方8名、通所利用の方が3名となりました。

現在入所している方の年齢層は様々ですが、ほとんど全員がダルクを経験したことがなく、薬をやめている期間やダルクに繋がってからの期間の差が半年もない方が集まっています。

最近は何のダルクでも、利用している方の中に、薬物が止まっている期間が1～3年ある方が数名いる場合が多いのですが、私がダルクに入所していた15年ほど前は、スタッフと呼ばれている人でさえ、薬物を止めて1年前後の人が多かったように思います。ダルク経験がない、薬物をやめて間もない利用者の入所が集中したり、地元の方が多く入寮、通所してくると、薬物の使用や取引などの問題が起こることが多いのですが、今の神戸ダルクでは、そのような問題は起こっておらず、現在入所しているメンバーは真面目にダルクのプログラムに取り組んでいます。薬をやめて間がなく、ダルクの入所時期が同じ者同士が集まると、自己の洞察に行きつく前に、施設の方針や仲間に対する不満など、自分以外の問題に目が行きがちになります。しかし、それは同時に、自分と似たような状況に置かれている仲間と、共通の悩みや問題について分かち合えるチャンスでもあるのです。

仕事や家庭を失い、刑務所、精神病院を経てダルクに繋がってくるという経験や、薬物の欲求や将来に対する不安などを分かち合うことができるのは、同じタイミングでダルクに入所し、同じ状況に置かれている仲間と特に分かち合いやすいことだと思います。

自分より少しだけ先に行く、回復の経験を持っている仲間の存在があると、現実的な経験やアドバイスが聞けるのですが、現在神戸ダルクには、断薬経験期間が1～3年という仲間がいないので、同じ時期に入所した者同士で切磋琢磨し、ともに回復の道を歩んでもらいたいと思っています。

断薬期間が1年の人も10年の人も、止まっている期間が1日、1週間、1か月という経験を経ているわけですから、どの段階にいる人もその時々に応じた課題に取り組んでいけば先は見えてくるものです。

この原稿を書いている(11月初旬)で、私は40歳の誕生日を迎え、薬物をやめている期間も13年になりました。

ダルクのプログラムのおかげで薬物も止まりましたし、ダルクを卒業した後に、高校と福祉の大学を出て、現在は職員としてダルクに戻ってきました。

十数年前はダルクに入所していて、隠れて薬を使ったり、仲間やスタッフの文句を言いながらゴロゴロ寝ていた私も、今では逆の立場で新しい仲間のサポートをしていると思うと、不思議な感じがします。

自分の経験や学んできたことを活かして、ダルクにやってくる仲間たちが回復に向かう環境を作りたいと思っています。



## 活動報告

8 月

赤坂第二自立準備ホーム開所  
ロックガーデン登山  
バーベキュー（新神戸河川敷）  
垂水病院メッセージ  
灘区保護司会講演  
関西圏ダルク施設長会議 in 神戸  
相模原ダルクメッセージ

10 月

兵庫県更生保護女性会講演  
NA 岡山ギャザリング参加  
関西エリア合同ソフトボール大会  
依存症セミナー in 神戸  
京都ダルクフォーラム参加  
神戸大学講演

9 月

アゲインファーム  
東近江ダルク訪問  
東灘区更生保護女性会講演  
ゾンタ講演  
リカバリーパレード参加  
川西市けやき坂小学校区人権講演  
神戸女学院 OG 会講演

11 月

神戸市精神保健福祉センター講演  
NA パブリックインフォメーションセミナー参加  
JCCA 石垣島

### 近況報告・活動予定

新しい寮が開設され、少し落ち着いてきた現在ですが、みんなで移動するためのワゴン車をようやく購入することができました。財団法人倶進会さまからの助成にて、関西地域の他のダルクの仲間との交流などもできるようになりました。カリタスジャパンさんの支援にて、今後はグループホームを準備することができそうですが、近隣の問題や、担当職員などの問題で苦戦しております。

また、年末年始は仲間とともに、久しぶりの正月を社会で迎えるメンバーもいます。普通のお正月、安心した年末、希望ある新年を迎えることは、回復においてパワフルなマイルストーンになります。そんな仲間たちと、美味しいものを食べ、のんびり過ごし、この一年を振り返りたいと思います。



財団法人倶進会様の助成 中古のトヨタ ノアですが、非常に綺麗で、乗り心地も快適です。最初の遠出は、京都ダルクフォーラムでした。

## ～最近のダルクプログラム～

神戸ダルクのプログラムにて、最近は女性スタッフが効果的に盛り上げて来ています。保健師である田中さんのヘルスケアプログラムや、ゆうさんによるアートセラピー、アロマセラピーなど楽しく時間を過ごしています。また、ワークブックによるエンカウンターグループなども人数が増え効果的にできるようになりました。また、先日行われた「関西エリアダルク合同ソフトボール大会」で、木津川ダルクとの合同チームで優勝することもできました。



### 神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュヨルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

#### 支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。

個人会員は1口 1万円からになります。ご連絡をお待ちしています。

神戸ダルク ヴィレッジ TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail: kobe.darc@gmail.com

### 電話相談 来所による面談 メール相談

相談の内容に関する秘密は厳守します

#### 逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘置所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜

10:00～17:00

★毎週火曜・木曜

18:00～22:00

メールは24時間OK。

kobe.darc@gmail.com

## 神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々を支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

### ご献金

平野茂様 坪川かづ子様 間明子様 富田安世様 兵庫県健康福祉部健康局業務課 業務対策 捜査班  
浜崎進様 竹川智恵子様 新田正彦様 坂野紘子様

### ご献品

峰美冬様 富山ダルク林敦也様 アゲイン様 遠山亜希子様 灘山将之様 大山公子様 平野茂様  
梅田明様 大口篤様

## 献金・献品をお願いいたします。

毎回毎回、本当に心苦しく思いますが、運営維持のためのご寄付及び、ご家庭で余っている日用品の献品をお願いいたします。薬物依存症者への初期の支援は、様々な問題や、面会、面談、訪問、手続き、会議などで追われてしまいます。が、そのような支援、さらに刑務所入所者、逮捕者への支援は、すべてボランティアにて行われています。しかし、そのような支援が本当は一番大切であり、依存症者の回復のチャンスを絶やさないようにしたいと考えていますので、何卒ご支援のほどよろしく願います。

ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から、洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、またこれから冬になりますので、毛布、布団、暖房器具などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。ソフトボールなども他のダルクに誘っていただいて始まりました。グローブなどもございましたら是非送ってください。

今年刑務所の外での正月を久しぶりに迎える仲間がたくさんいます。美味しいものを、あったかい場所で食べられるように節約中です。恥ずかしい限りですが、どうかご支援よろしく願います。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

### 編集後記

ニューズレターも皆様のおかげで4回目の発行となりました。関西障害者定期刊行物協会さんが真摯に、神戸ダルク ヴィレッジを理解し、協力してくれたおかげで、漸く第3種郵便の承認が通りました。これで、今まで以上に多くの人に定期的にニューズレターを送送することができます。感謝です。毎朝通勤時に電車で揺られながら眺めている六甲山も深く染まってきました。森林植物園、有馬温泉、神戸が一番美しい時期を今年も去年より多くの仲間と過ごせることにしみじみと感謝しています。

神戸ダルク ニューズレター Threshold (出発点) Vol.4

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部100円 年会費2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階